

りんごのハダニ類に対する簡易な薬剤効果の確認方法

ハダニ類は発育期間が短く年間の世代数が多いため、薬剤抵抗性が発達しやすい。現地においても、殺ダニ剤散布後にハダニの密度が低下しない事例が確認されているが、薬剤効果の低下によるものか、散布ムラによるものか不明である。

そこで、現地で実施可能な簡易なハダニ類の薬剤効果の確認方法について示す。

1 簡易方法

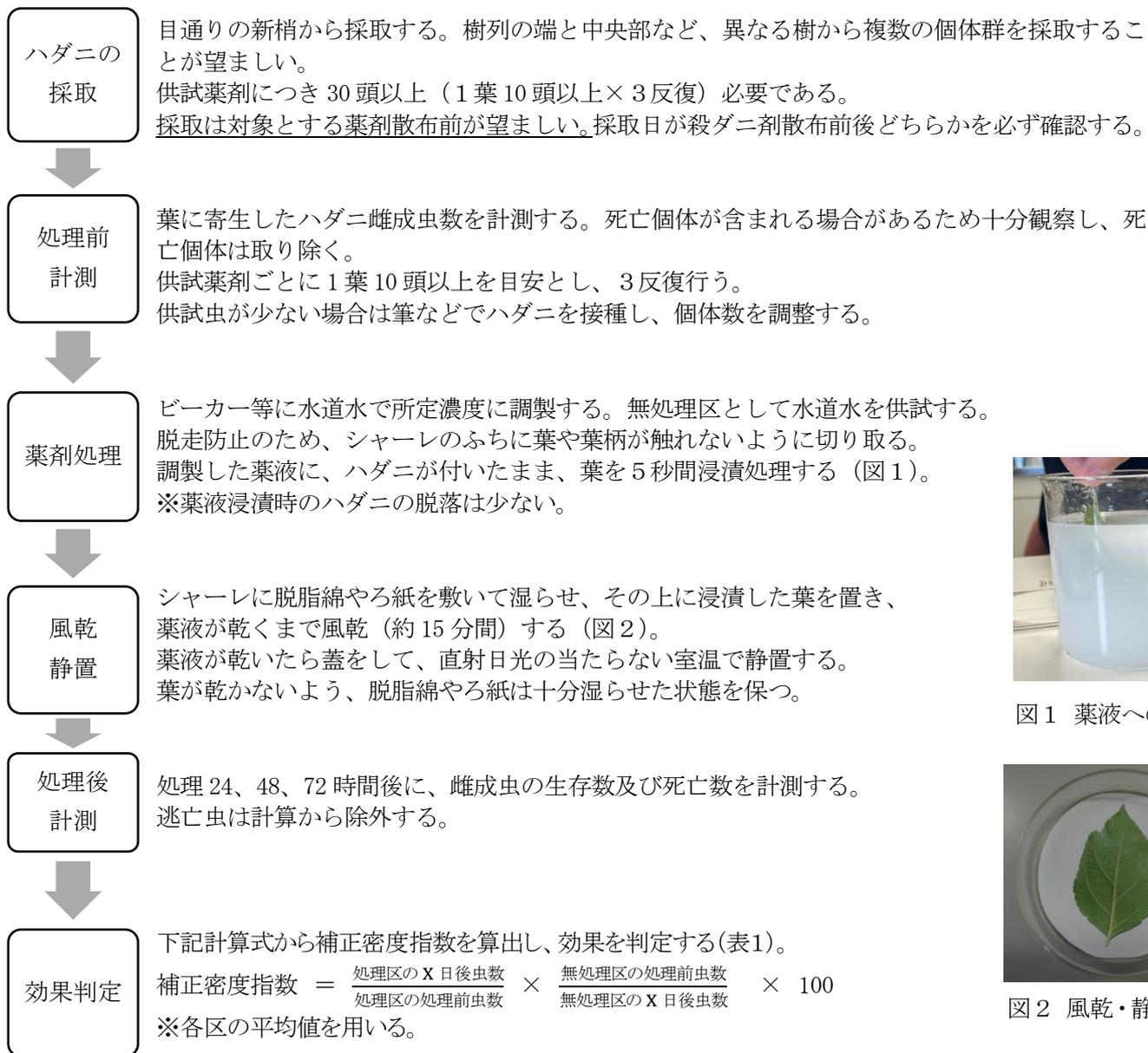


図1 薬液への浸漬



図2 風乾・静置方法

表1 判定基準

補正密度指数	5以下	5～15 未満	15～30 未満	30 以上
効果の判定	◎	○	△	×

◎:効果は高い、○:効果はある、△:効果は認められるがその程度はやや低い、×:効果は低い

※「新農薬実用化試験(日本植物防疫協会)」の判定基準を引用

2 留意事項

- ・ 当該方法は薬剤効果の確認のための手法であり、薬剤抵抗性検定でない事に留意する。
- ・ 同じほ場内でも薬剤感受性の低下は部分的に発達することがあるため、薬剤の効果が高いことが確認できた場合でも発生状況に注意すること。
- ・ 殺ダニ剤の効果が低下する要因として、殺ダニ剤の使用回数が影響すると考えられるため、ハダニ類採取地点における供試薬剤の通算使用回数を把握する。

3 参考文献

- (1) 公益財団法人青森県りんご協会：りんご生産指導要項（2020）
- (2) 農研機構(2019)：薬剤抵抗性農業害虫管理のためのガイドライン案

事業名：植物防疫事業